

クルマで踏切を渡る時の注意点

出典：JAF
クルマ何でも質問箱

■安全な渡り方は？

①踏切では遮断機や警報機の作動の有無に関係なく、一旦停止をして、前方（特に踏切の向こう側のスペースが空いているか）、そして左右（列車が来ていないか）を確認しましょう。

この時、運転席の窓を少し開けて警報音が鳴っていないか確認してください。

《信号機の付いている踏切については信号の表示に従って進むことができます》

②警報機が鳴りはじめたら、停止線で停止し列車の通過を待ちましょう。

遮断機や警報機が作動していない場合でも、前方にクルマがいて進路がふさがれているときは踏切に進入してはいけません。



③踏切には、渡りきるまでに距離のある長いものや、二つの踏切が連続していて、その中間に停止ゾーンがあるものなど、見極めが難しいものもあるので、無理は禁物です。

★遮断機や警報機がない踏切の場合は、列車の接近確認がとくに重要です

④また線路が複数存在する複線の場合、一方向からの列車が通過しても、続いて反対方向からも列車が来る場合もありますので注意してください。

⑤踏切内でのすれ違いは左右に余裕をもって慎重に行ないましょう。

⇒レール部分は鉄でできているため雨や雪の場合にスリップしやすいので注意が必要です。

《マニュアル車は1速ギヤのまま、変速せずにゆっくりと抜けるようにしましょう》

■渡っている最中に遮断機が下りた場合の対処法は？

①もし踏切を渡っている途中で遮断機が降りてしまったら、落ち着いて速やかに踏切の外へ脱出しましょう。《遮断機が作動してから列車が通過するまで、一般的には最短約15秒です》

②遮断機の遮断棒はクルマで押しでも折れずに斜め上に上がるような構造のため、クルマで押し切れば脱出することができます。



■踏切内で動かなくなった時は？

①踏切によっては交通規制（通行禁止等）があるので、手前の標識や看板で確認しましょう。
《無理に進入すると踏切内で動けなくなってしまう場合があります》

②万が一、脱輪やエンストによって踏切内でクルマが動かなくなった場合は、すみやかにクルマを降りて警報機側に設置されている非常ボタンを押して列車に自車の存在を知らせます。

⇒その後、表示されている連絡先に連絡しましょう。

★非常ボタンがない場合は、クルマに搭載している発炎筒を使って危険を知らせましょう！